

2018年11月19日

再生可能エネルギーを活用

家電リサイクル工場で使用する電力を 100 %再生可能エネルギーに切り替え

CO₂ゼロ工場を目指す

パナソニックグループの家電リサイクル工場であるパナソニック エコテクノロジーセンター株式会社(以下、PETEC)は、省エネルギーの取り組みに加え、創エネルギーの取り組みや再生可能エネルギー由来電力の調達により、100 %再生可能エネルギー由来電力による事業運営を実現しました。さらに今後、化石燃料の代替等により、CO₂ゼロ工場を目指します。

パナソニックは2017年6月にリリースした「環境ビジョン2050」に基づき、CO₂ゼロ工場の取り組みを進めています。具体的には、照明のLED化やFEMS(ファクトリーエネルギーマネジメントシステム)技術の活用などの省エネルギーの取り組みや、太陽光発電システムの導入などの創エネルギーの取り組み、また、再生可能エネルギー由来電力の調達などに取り組んでいます。

PETECは、CO₂ゼロ工場の取り組みの先行モデル工場として以下の取り組みを実施し、100 %再生可能エネルギー由来電力による事業運営を実現しました。

1. 省エネルギー

工場内の照明を2018年9月にすべてLEDに切り替えました。これにより、工場からのCO₂排出量の約2 %を削減しました。

2. 創エネルギー

現在、50 kWの太陽光パネルHIT™を設置しており、工場からのCO₂排出量の約1 %を削減しています。

3. 再生可能エネルギー由来電力の調達

上記1および2の取り組み後の購入電力に対し、2018年4月から関西電力株式会社のCO₂を排出しない水力発電を活用した「水力ECO(エコ)プラン」の活用を開始しました(購入電力の約88%)。それに加え、この度、社内の調達部門であるグローバル調達社を通して非化石価値取引市場から、2018年4月より有効な非化石証書を購入したことで(同、約12%)、実質的に100 %再生可能エネルギー由来電力の活用を実現しました。

PETECでは、2019年2月に244 kW、12月に330 kWの太陽光パネルHIT™を設置いたします。これらにより、トータルの設置容量は624 kWとなり、CO₂排出量の削減は現在の約1 %から、約15 %になります。

加えて、先進的なエネルギーマネジメントシステムの活用による省エネルギーの強化、地中熱など再生可能エネルギーの更なる活用や化石燃料より排出されるCO₂を吸収し分離・活用する技術など、自社技術開発も通した施策を推進します。また、それらを最適に組み合わせることで、よりエネルギー効率が高くCO₂を排出しない工場を目指していきます。

パナソニックでは、先行モデル工場PETECで培ったこれらの取り組みを国内外の工場に効果的に展開することで、「環境ビジョン2050」で掲げるグローバルでのCO₂ゼロ工場の実現に向けて、活動をより加速してまいります。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。